

「消化器」コースユニット1・2 試験問題

2008年7月4日

1 血中濃度が食後に低下するものはどれか。

- (a) 中性脂肪
- (b) 遊離脂肪酸
- (c) 尿酸
- (d) 血糖
- (e) インスリン

2 主に回腸末端で吸収されるものはどれか。

- (1) 蛋白質
- (2) コレステロール
- (3) 胆汁酸
- (4) 鉄
- (5) VB12

(a) 1,2 (b) 1,5 (c) 2,3 (d) 3,4 (e) 3,5

3. 唾液腺疾患について正しいのはどれか。

- (1) 唾石は顎下腺に多い。
- (2) がま腫は舌下腺に多い。
- (3) 多形性腺腫は口蓋腺に多い。
- (4) Warthin 腫瘍は顎下腺に多い。
- (5) 慢性硬化性唾液腺炎は耳下腺に多い。

(a) 1,2 (b) 1,5 (c) 2,3 (d) 3,4 (e) 4,5

4. 帯状疱疹について正しいのはどれか。

- (1) 原因ウイルスは単純ヘルペスの原因ウイルスと同じである。
- (2) 通常、両側性に発症する。
- (3) 初期感染における口腔病変は疱疹性歯肉口内炎のかたちを取る。

(4) 原因ウイルスは神経線維内に潜伏する。

(5) 早期に適切な処置が行われないと病変の消退後も疼痛を後遺し易い。

(a) 1,2 (b) 1,5 (c) 2,3 (d) 3,4 (e) 4,5

5. 軟組織内に発生する嚢胞はどれか。

(1) 粘液嚢胞

(2) 原始性嚢胞

(3) 歯根嚢胞

(4) 鼻口蓋管嚢胞

(5) 甲状舌管嚢胞

(a) 1,2 (b) 1,5 (c) 2,3 (d) 3,4 (e) 4,5

6. 咬合不正を生じる骨折はどれか。

(1) Le Fort I 型骨折

(2) 下顎骨体部骨折

(3) 下顎骨関節突起骨折

(4) 下顎骨筋突起骨折

(5) 頬骨弓骨折

(a) 1,2,3 (b) 1,2,5 (c) 1,4,5 (d) 2,3,4 (e) 3,4,5

7. 唇顎口蓋裂について正しいのはどれか。

(1) 唇裂は正中が最も多い。

(2) 唇裂の閉鎖は生後すぐ行なう。

(3) 顎口蓋裂の閉鎖は生後すぐに行なう。

(4) 哺乳指導が必要である。

(5) 言語治療、歯列矯正治療は必要である。

(a) 1,2 (b) 1,5 (c) 2,3 (d) 3,4 (e) 4,5

8 舌癌について正しいのはどれか。

- (1) 舌縁に好発する。
- (2) 男性に多い。
- (3) 組織学的には、通常、腺癌である。
- (4) 放射線治療にほとんど反応しない。
- (5) 遠隔転移では、肺転移が最も多い。

(a) 1,2,3 (b) 1,2,5 (c) 1,4,5 (d) 2,3,4 (e) 3,4,5

9. 歯性上顎洞炎について正しいのはどれか。

- (1) う歯や歯周炎が原因で生じる。
- (2) 通常、片側性に発症する。
- (3) 切歯が原因となることが多い。
- (4) 疼痛、違和感が生じることはない。
- (5) 通常、X線検査は行なわない。

(a) 1,2 (b) 1,5 (c) 2,3 (d) 3,4 (e) 4,5

10. 唾液分泌をつかさどる神経はどれか。

- (1) 顔面神経
- (2) 舌咽神経
- (3) 迷走神経
- (4) 副神経
- (5) 舌下神経

(a) 1,2 (b) 1,5 (c) 2,3 (d) 3,4 (e) 4,5

11. 扁桃病巣感染症と関連性のあるのはどれか。

- (1) 掌蹠膿疱症
- (2) 猩紅熱
- (3) 強皮症

問5
(4) 胸肋鎖骨過形成症

(5) IgA 腎症

(a)1,2,3 (b)1,2,5 (c)1,4,5 (d)2,3,4 (e)3,4,5

1 2. 下咽頭癌について正しいのはどれか。

(1) 梨状陥凹型は女性に多い。

(2) 早期癌が多い。

(3) 梨状陥凹側壁型のリンパ節転移率は高い。

(4) 扁平上皮癌が大半を占める。

(5) 輪状軟骨後面型では誤嚥性肺炎を引き起こす。

(a)1,2,3 (b)1,2,5 (c)1,4,5 (d)2,3,4 (e)3,4,5

1 3. 消化管のX線造影検査に関する次の記述のうち正しいものはどれか。

(1) 下部消化管検査の前処置には、通常 Brown 変法が用いられる。

(2) 消化管穿孔の疑いがある場合にはヨード系の造影剤を用いる。

(3) 硫酸バリウムを用いると必ず下痢を起こすので、止痢剤を投与して使用する。

(4) 消化管の造影剤にみられる重篤な副作用はアレルギー性ショックである。

(5) 上部・下部消化管検査を比較すると、下部の方が硫酸バリウムの濃度が高い。

(a)1,2 (b)1,5 (c)2,3 (d)3,4 (e)4,5

1 4. 食道のびまん性拡張をきたす疾患はどれか。

(1) 食道静脈瘤

(2) 逆流性食道炎

(3) 食道アカラシア

(4) 全身性強皮症 (PSS)

(5) 食道カンジダ症

(a) 1,2 (b) 1,5 (c) 2,3 (d) 3,4 (e) 4,5

15. 食道癌に関する次の記述のうち正しいものはどれか。

- (1) 食道癌の深達度診断には FDG-PET が最も有用である。
- (2) 早期食道癌で最も多い肉眼型は 0-IIc 型である。
- (3) 早期食道癌における EMR の適応を決定するためには、超音波内視鏡が有用である。
- (4) 食道癌が最も好発する部位は胸部上部食道 (Ut) である。
- (5) 粘膜上皮内に限局するような食道癌でも X 線検査で容易に発見する。

(a) 1,2 (b) 1,5 (c) 2,3 (d) 3,4 (e) 4,5

16. 胃癌の X 線所見に関する次の記述のうち正しいのはどれか。

- (1) 胃悪性リンパ腫は胃癌と同様な形態を呈し、生検以外では鑑別困難である。
- (2) Borrmann 分類は 1 型から 5 型に分類される。
- (3) 組織型が分化型の胃癌と未分化型の胃癌では、肉眼形態に相違がない。
- (4) 隆起型早期癌の組織型は分化型が殆どである。
- (5) 早期胃癌の中で最も多い肉眼型は IIc 型である。

(a) 1,2 (b) 1,5 (c) 2,3 (d) 3,4 (e) 4,5

17. 次の疾患と X 線所見の組み合わせのうち正しいものはどれか。

- | | |
|------------|------------------------|
| (1) クロウン病 | longitudinal ulcer |
| (2) 虚血性大腸炎 | skip lesion |
| (3) 偽膜性腸炎 | cobblestone appearance |
| (4) 腸結核 | thumb printing |
| (5) 潰瘍性大腸炎 | pseudopolyposis |

(a) 1,2 (b) 1,5 (c) 2,3 (d) 3,4 (e) 4,5

18. 小腸疾患に関する次の記述のうち正しいものはどれか。

- (1) 空腸と回腸を比較すると、空腸の管腔が狭い。
- (2) 空腸と回腸を比較すると、回腸の Kerckring fold が多い。
- (3) 腸結核は輪状・帯状潰瘍が特徴的である。
- (4) Crohn 病の縦走潰瘍は腸間膜付着側にみられる。
- (5) メッケル憩室は Treitz 靭帯に近い空腸にみられる。

(a) 1,2 (b) 1,5 (c) 2,3 (d) 3,4 (e) 4,5

19. 大腸疾患に関する次の記述のうち正しいものはどれか。

- (1) 急性虫垂炎の CT 診断では、消化管穿孔や腹腔内膿瘍などの合併症を確認する必要がある。
- (2) ほとんどのカタル期の急性虫垂炎は CT で診断が可能である。
- (3) 進行大腸癌の中では 3 型の割合が最も高い。
- (4) 正常の虫垂の径は 15mm までである。
- (5) 腸重積の特徴的な CT 所見に Target sign がある。

(a) 1,2 (b) 1,5 (c) 2,3 (d) 3,4 (e) 4,5

20. 食道癌の手術について正しいものはどれか。

- (a) 肺転移を伴う進行食道癌はリンパ節郭清が無意味なので、食道抜去術が適応である。
- (b) 胸部食道癌の手術は、左開胸による食道切除術が行われることが多い。
- (c) 後縦隔経路再建は縫合不全が少なく、高齢者に適している。
- (d) 再建臓器として胃を用いることが多いが、大腸を用いることはない。
- (e) 胸部上部食道(U t)の進行癌は、頸部のリンパ節にも転移しやすいので郭清が必要である。

21. 胃の転移について正しいものはどれか。

- (a) Schnitzler 転移は血行性転移と考えられる。
- (b) Virchow 転移は胃の所属リンパ節への転移である。

- (c) 胃癌の肝転移の頻度は大腸癌の肝転移よりやや多い。
- (d) 胃癌手術後の再発で最も多いのは腹膜播種である。
- (e) Krukenberg tumor は閉経後の女性に多い。

2 2. 胃癌の術後合併症について正しいものはどれか。

- (a) 早期ダンピングは低血糖が主な原因である。
- (b) 噴門側胃切除術後の小腸間置再建術は逆流性食道炎を避けるために行われる。
- (c) 早期ダンピング症候群では、糖質の摂取で予防するように指導する。
- (d) 術後に吻合不全を生じた場合、再手術で吻合を行うことが多い。
- (e) 胃全摘後のビタミン B12 欠乏による貧血は術後 1 年以内に発症することが多い。

2 3. 胃 G I S T について誤っているものはどれか。

- (a) 発生部位は下部(L)領域に多い。
- (b) 中心に潰瘍形成をきたす傾向がある。
- (c) 腫瘍サイズが 2.5 cm の場合、腹腔鏡手術の良い適応である。
- (d) 転移形式は血行性転移がほとんどである。
- (e) 抗癌剤の効果が期待できる。

2 4. 大腸癌について正しいものはどれか。

- (a) 早期下部直腸癌では、経肛門的、経仙骨的腫瘍摘除術の適応となることはない。
- (b) 直腸癌術後の局所再発は稀である。
- (c) 進行直腸癌に対して放射線治療が行われることはない。
- (d) 肝転移、肺転移に対する治療は、抗癌剤が一般的である。
- (e) 抗癌剤の効果が期待できる。

2 5. 潰瘍性大腸炎について正しい組合せはどれか。

- (1) 潰瘍性大腸炎は癌化するため、診断が確定したら外科手術が第一選択である。
- (2) 結腸全摘、回腸直腸吻合術 (IRA) は、再発、癌化の可能性を残す。

(3) 中毒性巨大結腸は、緊急手術の適応である。

(4) 大腸全摘、回腸瘻造設術は、二期的に行われることが多い。

(a) 1,3,4のみ (b) 1,2のみ (c) 2,3のみ (d) 4のみ (e) 1~4のすべて

26. 肛門疾患について正しいものはどれか。

(a) 内痔核は肛門縁の口側に発生する。

(b) 肛門周囲膿瘍は肛門陰窩より細菌が侵入し発生することが多い。

(c) 痔瘻は自然治癒することが多い。

(d) 痛みを伴う外痔核は手術適応である。

(e) 裂肛は肛門管前壁に発生することが多い。

27. 大腸癌について正しいものはどれか。

(a) 大腸腺腫から大腸癌が発生することは稀である。

(b) ポリポシスを伴わない遺伝性大腸癌がある。

(c) 正常粘膜から直接発生する大腸癌がほとんどである。

(d) 同時性肝転移を伴う大腸癌は手術適応外である。

(e) 進行した下部直腸癌に対して術前放射線治療を行っても局所再発は制御不可能である。

28. 潰瘍性大腸炎より Crohn 病に多い合併症はどれか。

(1) 大量腸出血

(2) 腸穿孔

(3) 腸瘻

(4) 腸狭窄

(5) 中毒性巨大結腸症

(a) 1,2,3 (b) 1,2,5 (c) 1,4,5 (d) 2,3,4 (e) 3,4,5

29. 癌を合併しやすいのはどれか。

(1) 過形成性胃ポリープ

(2) 径 2cm 以上の胃腺腫

- (3) 家族性大腸ポリポーシス
- (4) 大腸絨毛腺腫
- (5) Cronkhite-Canada 症候群

(a)1,2,3 (b)1,2,5 (c) 1,4,5 (d)2,3,4 (e) 3,4,5

30. 虚血性大腸炎について正しいのはどれか。

- (a) 中年の人に多い。
- (b) 上行結腸に好発する。
- (c) 腹痛と下痢が主要症状である。
- (d) 狭窄を来しやすい。
- (e) 一般に発病初期直ちに手術する。

31. 吸収不良症候群を来すのはどれか。

- (1) 強皮症 (PSS)
- (2) 過敏結腸(irritable_colon)
- (3) アミロイドーシス
- (4) 悪性リンパ腫

(a)1,3,4のみ (b)1,2のみ (c)2,3のみ (d)4のみ (e)1~4のすべて

32. 食道疾患に関する次の記述のうち正しいものの組み合わせはどれか。

- (1) GERD の原因として一過性下部食道括約筋弛緩が多い。
- (2) GERD の分類として Los Angeles 分類がある。
- (3) sm2 食道癌は ESD による局所治療の適応となる。
- (4) Rokitansky 憩室は咽頭食道に好発する圧出性憩室である。
- (5) アカラシアは進行に伴い、S 状型、フラスコ型、紡錘型の順に拡張していく。

(a) 1,2 (b) 1,5 (c) 2,3 (d) 3,4 (e) 4,5

33. 食道疾患に関する次の記述のうち正しいものの組み合わせはどれか。

- (1) 胸部食道は漿膜に覆われている。
- (2) Red color sign (RC sign)陽性の食道静脈瘤の治療としてEMRがある。
- (3) T1aN1M0の食道癌は「早期食道癌」である。
- (4) 全身性硬化症 (PSS) は食道炎を合併しやすい。

(a)1,3,4のみ (b)1,2のみ (c)2,3のみ (d)4のみ (e)1~4のすべて

34. 胃疾患に関する次の記述のうち正しいのはどれか。

- (1) 胃底腺ポリープ (FGP) は癌化することは稀である。
- (2) 瘢痕期胃潰瘍の所見として、集中襞の断裂・蚕食像がある。
- (3) PPI+AMPC+CAMによる *H. pylori* の除菌率は約50%である。
- (4) 胃悪性リンパ腫 (MALT) の治療としてメシル酸イマチニブが有効である。
- (5) 胃腺腫の肉眼的形態はIIa型早期胃癌に類似する。

(a) 1,2 (b) 1,5 (c) 2,3 (d) 3,4 (e) 4,5

35. 胃癌に関連して正しいのはどれか。

- (1) 大きさ3cmで潰瘍を伴う未分化型腺癌はESDの適応である。
- (2) 胃癌の左鎖骨上窩リンパ節転移をSchnitzler転移という。
- (3) 早期胃癌の5年生存率は約70%である。
- (4) 慢性萎縮性胃炎は胃癌の発生源として注意が必要である。
- (5) 早期胃癌はIIc型が最も多い。

(a) 1,2 (b) 1,5 (c) 2,3 (d) 3,4 (e) 4,5

36. 次のうちで正しい組み合わせはどれか。

- (1) *H. pylori* 感染 — ウレアーゼテスト
- (2) Zollinger-Ellison Syndrome — インスリノーマ
- (3) 孤立性胃静脈瘤 — B-RTO

(4) EVL — 内視鏡的食道静脈瘤結紮術

(a)1,3,4のみ (b)1,2のみ (c)2,3のみ (d)4のみ (e)1~4のすべて

37. 次の記述のうち、正しいものはどれか。

- (a) 潰瘍性大腸炎に伴って発生する大腸がんは、10年以上の経過の後に発生するものが多い。
- (b) Meckel 憩室は腸間膜側に見られ、成人では通常回盲弁より約1m口側に見られる。
- (c) 虚血性大腸炎の慢性型では立ち枯れ像 (ghost-like appearance) が出現する。
- (d) クロウン病に於ける縦走潰瘍は通常腸間膜の反対側に見られる。
- (e) Hirschprung 病では無神経節細胞域と狭窄部位は一致する。

38. 次の gastrointestinal stromal tumor (GIST)に関する記載のうち、正しいものはどれか。

- (a) 腫瘍の大きさと悪性度には相関がない。
- (b) 消化管では結腸に最も発生しやすい。
- (c) GISTは消化管の粘膜上皮から発生する間葉系腫瘍の総称である。
- (d) GISTの発生の全てに c-kit 遺伝子の変異が関与する。
- (e) 細胞異型度、核分裂の頻度は良・悪性判断の目安になる。

39. 唾液腺腫瘍として適当ではないものはどれか。

- (a) 多形腺腫 (pleomorphic adenoma)
- (b) Warthin 腫瘍 (腺リンパ腫 adenolymphoma)
- (c) 腺様のう胞癌 (adenoid cystic carcinoma)
- (d) 類表皮癌 (mucoepidermoid carcinoma)
- (e) エナメル上皮腫 (ameloblastoma)

40 H. pylori 感染について、正しいものはどれか。

- (1) 消化性潰瘍の発生率を上げる。
- (2) GIST(gastrointestinal stromal tumor)の原因になる。
- (3) 日本では感染率は年齢に関連しない。

(4) lymphoepithelial lesion(LEL)が認められる。

(5) H. pylori 除菌は胃 MALT リンパ腫に有効である。

(a) 1,2 (b) 1,5 (c) 2,3 (d) 3,4 (e) 4,5